

辞典作りの カミング・アウト

学事センター長/総合人間科学部教授
藤村正之



どの図書館でも、「参考図書コーナー」というのがあり、辞典・事典や統計書などがおいてある。わからない言葉や事象があるとき、辞典・事典を通じて意味や事実を確認して参考にすることができる。何事も初学者の段階は辞書を持参することが求められ、その重さに困った経験を記憶している人も多いだろう。しかし、現代は電子辞書というハンディなメディアに多様で複数の辞典・事典が搭載される時代となっており、重さの問題は解消されたといえる。

私自身もこれまで社会学関係の複数の辞典・事典に執筆者や編者として参加する機会を与えられ、作成の苦しみと充実感を味わってきた。自分が研究者として、また物書きとして100点の存在でないことは重々承知しているの、自分が執筆に携わった辞典の出来が100点でないということは、出版前から先刻百も承知となる（私が執筆した項目についてであるが）。辞典作りに参加することは、完全に信じられるものがこの世からまたひとつなくなっていく哀しさともにあることになる。

自分が執筆する言葉が自分の専門分野に近く、かなりの程度知見があると思うものは即座に自分で構想を練り書き始めるのだが、必ずしもそうでないもの（むしろ、そちらのほうが多い）は、まず他の辞典・事典でどのように書かれているか、勘所を押さえるために確認することになる。するとおもしろいことに、辞典間・事典間に類似の表現があることに気づいて要点を確認できたり、項目の有無や表現内容の変化に時代の変容を感じることができる。専門家として臨む私たちも必ずしも完全な存在でない。現在、ウェブ空間に存在するWikipediaなどは、辞典・事典は、学術の世界に近い一部の専門家だけで作るのがいいのか、人々の英知を総動員して公開の相互批評の下に電子空間で作るのがよいのかという問題を提起する存在ともなっている。ウェブ空間上に世界の社会学者が集うSociopediaなるものを作ってはどうかという提案を、日本の社会学者有志が世界に発信していたりもする。

辞典類を比較してみるのも興味深い、ひとつの辞典内の言語空間に分けいていくことも不思議な楽しさに満ちている。辞典は言葉による言葉によって説明していくという特徴をもっている。そこで、最初の言葉を調べ、その説明に出てきた言葉を次に調べ、さらにその説明に出てきた言葉を調べるという作業を次々に続けていくことができる。するとこんなことが起こる。皆さん自身、「右」はどう説明するだろ

うか。『広辞苑』での「右」の説明は「南に向いた時、西にあたる方」となっている。なるほどである。そこで、今度は「南」を調べてみる。すると、「南」の説明は「日の出る方に向かって右の方向」とされる。「1+1=2」の説明が簡単ではないように、何事も基本的なことの説明は難しい。「右」と「南」の説明は相互循環しており、言語的に説明しきれていないということになる。このように辞典は、実は言葉の「堂々巡り」の宝庫なのでもある。

実は数年前、幸運かつ光栄なことにその『広辞苑』第6版の作成にあたって、社会・福祉・社会政策分野の項目検討の協力者として、その下働きに参加させていただき、貴重な経験を得ることができた。広辞苑も、私にとって項目の一部が信じられない時代になることになったわけである。広辞苑にはすでに多くの字句が掲載されており、使われなくなっていく語もあるのだが、「死語」になったから削られるということは基本的になく、むしろ歴史性をおびた語として残されていく。そのため、広辞苑の語は版を重ねるごとに増えていくことになる。項目内容の判断と文責は最終的に広辞苑編集部にあるので、私たち協力者は編集部の求めに応じて、すでに掲載されている言葉の事実確認、現代的意味合いにあわせて文意の変更や追加記載をおこない、さらに編集部が新語採用を考えている語の最初の文案を考えることになる。その上で、2年ほどかけて編集部が文意の確定や文体の統一、説明を2～3行に収めるための字数調整をおこなうことになる。私の担当は項目確認が約120語、新語作成が15語ほどであった。足かけ5～6年におよぶ地道な作業によって、ようやく広辞苑は完成にいたる。辞典作りは、過去の先人たちの膨大な知の蓄積の上に、きわめてささやかな現代的作業をつけくわえ、次の世代に知のバトンを引き渡していく仕事であるということを強く実感した仕事であった。

第6版に新語採用された語の中で、私が下案担当したものひとつに「カミング・アウト」がある。この小稿は、辞典・事典も完全ということではなく、人が作り世代を超えて引き継がれていく書物であるという認識を、皆さんにもってもらっための裏話だったというわけである。

CONTENTS

1 辞典作りのカミング・アウト

藤村正之

学事センター長/総合人間科学部教授

特集

2 地下1階リニューアルしました

4 新聞コーナーは1階に移動しました!

5 図書選定委員お薦めの本

後藤聡史

理工学部情報理工学科(数学領域)図書委員/理工学部講師

連載

6 文献の探し方 >>5

「レポート・論文」を執筆する

8 図書館からのお知らせ・図書館豆知識

● 地下1階リニューアルしました ●

その1 南側はラーニング・コモンズに。10月1日より始動！

改修工事を夏期休暇期間中に終え、いよいよ「ラーニング・コモンズ」がオープンしました。早速、グループで作業をする姿、持ち込みPCでインターネットを利用する姿、レポート作成にいそむ姿が見られ始めました。

ラーニング・コモンズとは？

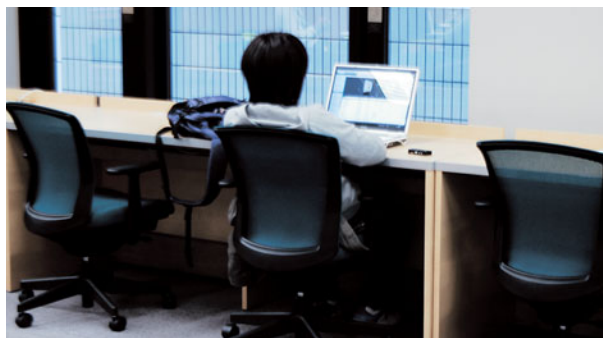
2005年頃から米国・英国の大学図書館で登場した新しい形で、「学習するために皆が集う共有の場所(=コモンズ)」という意味が込められています。国内でもいくつかの大学で導入され始めた学習支援施設です。従来の講義を受けて知識を得る「受身」型から「問題解決」型へと学習方法の変化にあわせ、皆さんが活用しやすい学習の場として注目されています。

ラーニング・コモンズを活用しよう

● 持込PCでインターネットに接続できます。

PC利用エリアは18席。無線LANはもちろん有線LANを利用できます。キーボードのタッチ音も気兼ねなく打てます。

その場でデータベース検索したり、電子ジャーナルにアクセスも可能。(総合メディアセンター発行のアカウントの取得が必要です。接続方法は総合メディアセンターの利用案内を参照してください。)



● 資料はすぐそこに

図書館内にあるので、足を伸ばせばすぐに図書や雑誌にアクセスできます。返却はこちらでもOK。ラーニング・コモンズ専用の辞書、論文の書き方等参考書も揃っています。



● グループで討論

ラーニング・コモンズ内の机、椅子は可動式で、人数に合わせて組み合わせも思いのまま。図書館内にあって、討論ができるのも特徴です。(他の利用者に迷惑にならないように注意してくださいね。) ホワイトボードを有効活用すれば、アイデア蓄積にも便利。



●ゼミ発表の練習も

プレゼンテーションエリアを利用すればこのとおり。プロジェクターなどのプレゼン機器も使用できます。

今後、図書館主催の学習支援セミナーを順次行いますのでぜひご参加ください。



●サービスデスク

エリアの総合案内役です。利用方法、プレゼンテーションの予約、機器の借用手続きを受け付けます。

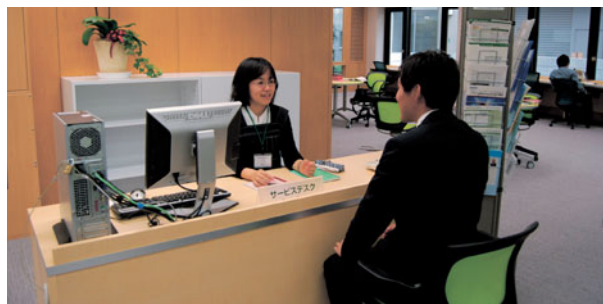
●学習支援席

図書館スタッフによるレポート・論文作成のための資料収集案内・情報検索指導が受けられます。利用希望者はサービスデスクまで気軽にご相談ください。

図書館内なので、飲食禁止、
携帯電話通話・音禁止です。



エリア内での会話はできますが、
他のグループや利用者にも配慮してください。



その2 学生ラウンジも模様替え

ラーニング・コモンズでの勉強に疲れたら、隣の学生ラウンジで気分転換を。

この秋は、新しく入った書架に、「芸術の秋」にちなんで、画集を揃えました。



その3 新書コーナーはこちらに引っ越しました。

中央階段そばにあります。





新聞コーナーは **1 階** に移動しました！

地下1階にあった新聞コーナーをラーニング・ commons の開設にともない、1階南側新刊雑誌コーナー隣に移動しました。



新聞架

現在、上智大学で購読している新聞

日本語	27紙
中国語	8紙
コリア語	3紙
英語	31紙
ドイツ語	3紙
フランス語	4紙
スペイン語	2紙
ロシア語	3紙
計	81紙



このうち、和新聞（中国語・コリア語含）29紙、洋新聞40紙が新聞架に掛けています。

北海道新聞、中日新聞、中国新聞、西日本新聞、沖縄タイムズの地方紙も購読しています。
出身地の方もそうでない方も読んでみてね！
地方の面白い記事に遭遇するかも・・・

前日以前の新聞と新聞架に掛かっていない新聞は1階の書架に2ヶ月間置かれます。その後は保存期間によって3階の新聞書架（2年間）→地下2階集密書庫で保管されています。

尚、縮刷版とマイクロフィルムで保存する新聞の原紙は縮刷版とマイクロフィルムが受入された時点で廃棄されます。





中内伸光 著

『数学の基礎体力をつけるための
ろんりの練習帳』

飯高茂 編・監修

『微積分と集合・
そのまま使える答えの書き方』

数学をきちんと学びたい人のために、まず次の2つの本を推薦します。

まず数理論理学の初歩として[1]「ろんりの練習帳」(中内伸光著、共立出版)、そして集合・写像・収束と連続についての基礎として[2]「微積分と集合・そのまま使える答えの書き方」(飯高茂編・監修、講談社)です。本当は「解析概論」(高木貞治著、岩波書店)などの名著を推薦したいのですが、そのような格調の高い名著を読む前に、まず数学を記述する「言葉」として最も基本的な「論理・集合・写像」について、前述した2つの本でしっかり基礎固めをして欲しいです。ひとたび数学を記述する「言葉」に慣れてしまえば、あとはどんな数学書も自力で読み進めることができるようになります。そういう意味でこのような基礎固めが、遠回りのようで数学を本当に理解するためには、結局早道になるのです。

上記[1][2]は、数学を記述する「言葉」のごくごく初歩的な内容にしか触れられていないので、もしさらに勉強を進めるのであれば、数理論理学については[3]「記号論理入門」(前原昭二著、日本評論社)、集合論については[4]「集合・位相入門」(松坂和夫著、岩波書店)を続けて読まれることをお勧めします。

また抽象的で難しいといわれる位相空間論ですが、初めて勉強するときは上記[4]の後半を読む前に、その基本的なアイデアがやさしく丁寧に説明された本である[5]「トポロジー入門」(松本幸夫著、岩波書店)の前半を読まれるとよいでしょう。この本の後半は基本群と被覆空間に関する解説が書かれています。

大学で習う幾何学は抽象的で難しいのですが、[5]

の著者である松本幸夫先生の本は、どれも非常に丁寧に読みやすいのでお勧めです。幾何学に興味のある人には、左記[5]の他に多様体論に「多様体の基礎」(松本幸夫著、東京大学出版会)、ホモロジー論の入門として「4次元のトポロジー」(松本幸夫著、日本評論社)の2冊を読まれることをぜひお勧めいたします。

それから情報理工学科の学生向けに、初等整数論や代数学の基礎としてお勧めしたいのが「代数系入門」(松坂和夫著、岩波書店)です。この本は初等整数論に始まり、群・環・加群・体と代数系の理論の基礎が一通り解説されているので、代数学の基礎理論はこれ1冊でも十分と言える内容となっています。

他にもいろいろ推薦したい本がありますが、今回はこの辺でやめておきましょう。数学に興味はあるけれど、たくさん本がありすぎて、どの本を読んだらいいのかわからないという時には、私や他の数学領域の先生のところに気軽に相談に来てください。

>> 図書館所蔵 書庫2階

ろんりの練習帳	410.96 : N433
微積分と集合・そのまま使える答えの書き方	413.3 : I273
記号論理入門	410.96 : Ma274
集合・位相入門	413.9 : Ma925
トポロジー入門	415.7 : Ma815
多様体の基礎	415.7 : Ma815t
4次元のトポロジー	415.7 : Ma815y : 1991
代数系入門	411.2 : Ma924

文献の探し方 >>5

「レポート・論文」を執筆する

～『地球温暖化』をテーマにした～
レポート・論文を書いてみよう

図書館には様々な資料がありますが、実際にレポート・論文を書くにあたって、どのような手順で図書館の資料を活用すればよいのでしょうか？皆さんに図書館の資料を有効に使っていただくために、レポート・論文を執筆するために知っておくと便利な「文献の探し方」を連載しています。

第5回目は「レポート・論文を執筆する」です。『地球温暖化』というテーマを基に、タイトルを決定し、レポート・論文を執筆する方法についてご紹介します。

レポート・論文作成の手順 ■■■■

① 用語を調べ、 テーマを決める

辞書、百科事典、データベース、インターネット情報等により、テーマについて調べましょう。図書・雑誌論文など各種文献を概観し、同一テーマでの研究例などを調べるのが大切です。

② 文献(情報)を探す

テーマが決まったら、OPAC(上智大学蔵書検索)、各種データベース、レファレンス資料等を駆使して、テーマに関する文献(情報)を探しましょう。必要に応じて文献リストを作成します。

③ レポート・論文を 執筆する

文献による情報、それ以外の調査データ、アンケート、フィールドワーク(取材)等の客観的事実を踏まえ、レポート・論文を執筆しましょう。

今回はレポート・
論文を執筆します

レポート・論文を執筆するには ■■■■

前回に引き続き『地球温暖化』をテーマに取り上げてみます。
執筆にあたっての大きなプロセスを記すと、以下のようになります。

- 1 テーマを基にタイトルを決定する。
- 2 文献を読み込む。
- 3 構成を考える。
- 4 引用に注意しながら本文を書く。
- 5 要旨(アブストラクト)を書く。
- 6 参考文献リストを作る。



今回はレポート・論文作成の参考となる文献を引用しながら解説します。

1 テーマを基にタイトルを決定する。

一口に「地球温暖化」といっても様々な観点があります。人文科学的視点や自然科学的視点から、自分の問題意識を確定し、このテーマをさらに絞り込みます。そして、より具体的なタイトルを考えます。
たとえば「地球温暖化について各国の取り組み、政策の比較—新興工業国の事例を中心に—」などです。タイトルでは、何について書くのか、何を訴えたいのかを読み手に分かってもらう必要があります。自分が相手に伝えたいことを、まず分かりやすく提示することです。タイトルの重要性について再確認してみましょう。

2 文献を読み込む。

文献の収集については、前号までに紹介しましたが、図書はOPAC、雑誌論文はCiNii (<http://ci.nii.ac.jp/>) などを使って収集しましょう。図書館ホームページにある「図書の探し方」、「雑誌記事の探し方」、「新聞記事の探し方」も参考になります。

文献を読む際には、文献が扱っているテーマや対象、書かれた目的を理解した上で、データや情報源、分析の方法が適切かどうか、論理が一貫しているかなどに注意しながら批判的に読み込みます。

文献の内容を整理・分析していく際には、『情報カード、ふせん、マーカー、パソコンを使うと便利です。これらの道具を使って、「自分のレポート・論文にどう活かすか」を考えながら、要点や気づいたことなどをメモしていきます。』⁽¹⁾ 突然浮かんだ考えもメモしておけるよう身近にノートを置きましょう。すぐには役立たなくとも、いつか役立つことがあります。『「いつもこれでいいのだろうか」という自問すること、疑問を持ち続けること、これは忘れないでください。そういう自問そのものが、文章となっていくのです。』⁽²⁾

3 構成を考える。

「起・承・転・結」など説得力のある、論理展開・章立てを考えます。まず序論で、レポートの目的と内容を読み手にとって、理解のしやすいように簡潔に示します。次に本論で、先行研究にふれながら自分の考えや主張を述べます。最後に結論で自分の主張の要点を整理し、今後の課題や展望についてもふれます。

4 引用に注意しながら本文を書く。

3で考えた構成を骨格として論旨を展開し、結論へと導きます。収集した各種文献に書かれていた内容を材料として利用する時(これを「引用」といいます)は、自分が調査したり考えたりしたことではなく、他の文献によるものであることを明記する必要があります。この時、定まった書式で引用文献リストを記述していきます。『他人の見解等を明確にした上で、自分の見解を述べるのが、レポート(論文)の作法です。他人の意見を自分の意見のように記述するのは、決して行ってはならないことなのです。』⁽³⁾

5 要旨(アブストラクト)を書く。

本文が書けたら、その中でキーフレーズを拾い出してみます。序論、本論、結論のキーフレーズを含む重要なセンテンスをつなげてみましょう。要旨は大体できてしまうものです。『文献データベースを検索して、関連論文のアブストラクトも手に入れて参考にすることもできます。論文の内容をわかりやすく正確に伝えるのはもちろんのこと、魅力的な要旨を書いて読者を惹きつけることも大切です。』⁽⁴⁾

6 参考文献リストを作る。

本文を書くにあたって参考にした文献リストを載せましょう。説得力ある論考には、定評ある参考文献が載せられているものです。文献リスト中の文献情報は、読者が資料を特定できるように書く必要がありますが、項目や書き方は分野や雑誌などで異なります。自分が集めた文献(情報)は、OPAC(蔵書検索)からであったり、論文情報データベースからなど様々です。そこで、前回ご紹介した「RefWorks」というソフトを使うと、収集した文献(情報)を効率的に整理でき(手作業だと大変です)、レポート・論文執筆に大変役に立ちます。「RefWorks」については、図書館だよりNo.5を参照してください。

(1)「文章の読解と執筆」.レポート・論文を書こう!誰にでも書ける10のステップ.p.30.(情報の達人,第3巻).紀伊國屋書店,2007,41p.(テキスト)

(2)木下長宏.大学生のためのレポート・小論文の書き方.明石書店,2000,p.43.

(3)米沢誠.図書館のすすめ:大学図書館を活用するための13章,p.27,東北大学附属図書館工学分館,2005,29p.(パンフレット)

(4)酒井聡樹.“これから論文を書く若者のために”.改訂第二版.1999-1-21. <http://hostgk3.biology.tohoku.ac.jp/sakai/ronbun/kyo/korekara/honbun.html>.(参照2009-10-20).

参考文献

藤田節子.レポート・論文作成のための引用・参考文献の書き方.日外アソシエーツ,2009,144p.(学部地下2階 816.5:F673)

木下長宏.大学生のためのレポート・小論文の書き方.明石書店,2000,111p.(学部地下2階 816.5:Ki465)

酒井聡樹.これから論文を書く若者のために.大改訂増補版.共立出版,2006,301p.(学部地下2階 816.5:Sa291:2006)

文献の探し方、データベースの使い方、レポート・論文の執筆方法について分からない場合には、図書館1階レファレンスカウンター(月~金、9:00~17:00)までお越しください。

図書館からのお知らせ

年末年始の開館日・サービス時間などについて

年末年始(冬期休業中 **12月23日(水)～1月4日(月)**)の各図書館の開館日及びサービス時間は、以下のようになります。なお、サービス時間は、変更になる場合がありますので、詳細は、図書館ホームページでご確認ください。

(1) 開館日・開館時間

	中央図書館	石神井分館	法科大学院図書室
12月23日(水)	休 館	休 館	開 室 (10:00～18:00)
24日(木)	開 館 (9:00～17:00)	休 館	開 室 (9:00～20:00)
25日(金)	開 館 (9:00～17:00)	休 館	開 室 (9:00～20:00)
26日(土)	開 館 (9:00～17:00)	休 館	開 室 (10:00～18:00)
27日(日)	休 館	休 館	開 室 (10:00～18:00)
28日(月)	開 館 (9:00～17:00)	休 館	開 室 (9:00～20:00)
29日(火)	休 館	休 館	閉 室
30日(水)	休 館	休 館	閉 室
31日(木)	休 館	休 館	閉 室
1月1日(金)	休 館	休 館	閉 室
2日(土)	休 館	休 館	閉 室
3日(日)	休 館	休 館	閉 室
4日(月)	休 館	休 館	閉 室

(2) サービス時間

【中央図書館】

	12月24日(木)、25日(金)、28日(月)	12月26日(土)
1F 貸出	9:00～17:00	9:00～17:00
1F レファレンス	9:00～17:00	サービスはありません
1F AVコーナー	サービスはありません	サービスはありません
2F 情報検索室・コンピュータールームL	9:00～17:00	9:00～17:00
5F 複写サービス	9:00～17:00 (12:00～13:00は閉室)	9:00～13:00

【法科大学院図書室】

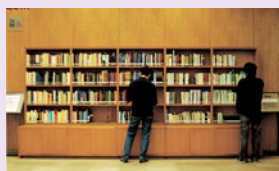
貸出	開室時間と同じ時間
利用相談	平日の9:00～17:00

一年間で出版されている新しい図書の冊数は?

昨年度(2008年4月～2009年3月)、日本で出版された新刊書籍は78,013冊*になり、児童書や学習参考書を除いても71,969冊*になります。

なお、上智大学図書館では学習・研究に必要な図書を厳選し、昨年度では17,451冊の和書、6,510冊の洋書を受入しました。 *2009年度出版年鑑より

参考) 2008年度(2008年4月～2009年3月)に
おける図書館利用状況
学部学生 121,644冊(一人当たり年間11冊)
大学院生 28,167冊(一人当たり年間25冊)



1F 新着図書コーナー



上智大学図書館だより No.6

発行所 上智大学図書館
〒102-8554
東京都千代田区紀尾井町7-1
TEL: 03-3238-3510
FAX: 03-3238-3139
発行日 2009年12月1日
印刷 株式会社ユニット
TEL: 03-5649-0031